

に建設されており、研究所の敷地にのみ緑の木々と芝生が生い茂る光景だけでも圧巻なのですが、それ以上にスーパーコンピューターの規模の大きさと使いやすさに驚かされました。Pacific Northwest国立研究所で私が使わせて頂いたマシンは2011年のスーパーコンピューターランキングにおいてTop10に入る最新型であるにも関わらず多くの研究者がそれを用いて大規模計算を行っており、私も申請すれば数日で利用出来るようになりました。誰もが簡単に最新型を利用出来るという点で、アメリカのスーパーコンピューター事情は日本よりも進んでいると思えました。また、Pacific Northwest国立研究

所の理論系の研究部門は各グループの規模が小さく教授だけのグループも存在しましたが、教授自身が積極的に研究されていました。さらに二週間に一度くらいの頻度でセミナーが行われており、毎回教授陣たちが白熱した議論を繰り広げるのが印象的でした。私も帰国直前にセミナーを行いますが、セミナー終了後には色々な先生から誉めて頂きとても嬉しかったです。

同じアメリカでも雰囲気が全く異なるMITとPacific Northwest国立研究所にて研究できたことは、私にとって大きな経験となりました。これからコース選択を行う総研大の学生の方も積極

的にこのシステムを活用することをお勧めします。最後に今回の滞在でお世話になったMITのTokmakoff教授とKrupaさんを始めとするTokmakoffグループのみならず、Pacific Northwest国立研究所のXantheas教授、大学院係の方と齊藤先生にこの場を借りてお礼を申し上げます。

総研大ニュース

「統合生命科学を推進する先端的教育研究拠点の構築」事業について

総研大では文部科学省・特別経費の支援によって、2011年より4年間の予定で表記事業を開始し、「統合生命科学教育プログラム」の授業を10月より開始しています。本事業の目的と全体計画は以下の通りです。

「目的」生命科学では様々な生物のゲノム情報が現在でも蓄積されつつあり、さらにポストゲノム研究としてプロテオミクスを初めとする「-omics」が大量のデータを産生しています。今世紀の生命科学はこれらの大容量データをプロセスし細胞、組織あるいは生物丸ごと理解するということが主流になると思われます。そのためには生物科学のみならず、物理科学、数理学、情報科学などに通じる学際的かつ統合的な生命観を持つ研究者の育成が急務です。本プログラムでは、国内最先端の研究機関において幅広い分野の大学院教育が行われているという総研大の特色を最大限生かし、統合生命科学の新

しいカリキュラムを作成・実施します。

「全体計画」異なる研究科と専攻を横断する統合生命科学教育プログラムを実施するため遠隔地講義配信システムを利用して、現地、遠隔地専攻に差がなく受講できるようにしています。科目には専攻担当教育科目、専攻間あるいは専攻を超えた融合教育科目があり

ます（具体的な科目は以下のURL: <http://ibep.ims.ac.jp/> をご覧下さい）。講義以外にも各専攻最先端の教育研究の場で集中的に演習・実習などを受けるシステム、大学院生が自ら提案し実施する分野横断型共同研究への支援も準備しています。さらに、統合生命科学を広く普及させるため、国内外の大学院生と若手研究者を対象とし、年ごとにテーマを決めた特別講義とセミナーを行う「統合生命科学サ

マースクール」を年に1回実施します。

分子研の先生方にも、大学院生にとっても新たな授業への負担が増えることで恐縮ですが、本願成就のためご協力いただければ幸いです。

（統合生命科学教育プログラムプログラム長 藤澤 敏孝* 記）

* 新人紹介30ページ参照

統合生命科学教育プログラム

Home 授業科目と単位 授業予定 履修モデル 過去のカリキュラム

統合研究大学院大学(総研大)では、文部科学省・特別経費の支援によって2011年度より「統合生命科学教育プログラム」を開始しました。

目的と必要性

生命科学の分野では、前世紀末のゲノム科学の進展により、様々な生物種の膨大なゲノム情報が蓄積されました。そのため、今世紀に入ってから、ポストゲノムの流れの中で、網羅的遺伝子発現決定プロジェクト(タンパク3000)などのポストゲノムプロジェクトの推進されるとともに、プロテオミクス、バイオインフォマティクス、メタノミクス/メタゲノミクスなどの新しい学問が生まれてきました。このような最先端の生命科学の進歩の中で、これからの生命科学に専攻することの出来る研究者を育成するためには、生命科学のみならず、物理科学、数理学などに通じる学際的かつ統合的な生命観を育める大学院教育が必要とされていきます。本プログラムでは、国内最先端の研究機関において幅広い分野の大学院教育が行われているという総研大の特色を生かし、統合生命科学の新しいカリキュラムを作成・実施します。

全体計画

生命科学研究の拡大に対応できる分野横断的な研究者を育成するために、異なる研究科と専攻を横断する統合生命科学教育プログラムを開発し実施します。遠隔地講義配信システムを利用して、遠隔地の専攻でも現地で同様講義を受講でき

統合生命科学特別委員会委員長 島藤 博博

総研大大学院生向けプログラム

「生命科学リトリート」参加登録のご案内

「生命科学リトリート」参加登録のご案内

学生企業共同研究

Interdisciplinary Research Collaboration grant

統合生命科学教育プログラムホームページ
<http://ibep.ims.ac.jp/>